

— 寄 稿 —

同志社女子大学看護学部における キャリア教育の現状と今後の展望について

On the Current Status and Future prospects of Career Education at
Faculty of Nursing, Doshisha Women's College of Liberal Arts

山崎聡子¹⁾

Satoko Yamazaki

キーワード：看護学生，キャリア教育，キャリア形成支援

I. はじめに

1999年文部科学省中央教育審議会答申による発達段階に応じたキャリア教育実施の提言をきっかけに、わが国の学校教育においてキャリア教育が導入されるようになった。2000年日本看護協会により「継続教育の基準」が作成され、組織による看護職のキャリア開発支援の方向性が示された（日本看護協会、2012）。これを受け、病院等の組織による看護職のキャリア開発を支援する研修実施などの取り組みが、看護学生のキャリア教育導入への流れにつながったと考えられる。

2015年4月同志社女子大学看護学部が開設されてから、約2年が経とうとしている。同学部開設時から開講されている「看護実践総合演習」において、キャリア教育を担当する外部講師として講義内容を紹介した上で、約10年前より医療機関での新人看護師を含む看護職のキャリア開発研修や相談業務に携わる中で感じるキャリア形成の課題について論じたい。これらのことを踏まえて、今後の看護学部におけるキャリア支援の取り組みについて提言したい。

II. キャリア教育とは

「キャリア教育とは何を教えるものですか」と学校関係者や学生に現在でも問われることがある。キャリア教育は10数年前にわが国に導入されるようになったものの、「キャリア」という言葉は社会でさまざまな意味で用いられており、キャリア教育を意味するものは理解しづらいと感じる。キャリア教育の実施を提言した中央教育審議会の答申による「キャリア」「キャリア教育」「キャリア発達」の定義を示したい。

- ・キャリア—人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね
- ・キャリア教育—ひとり一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。キャリア教育は普通教育・専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施される
- ・キャリア発達—社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程（文部科学省、2011）

近年、大学の看護系学部が就職に有利な学部のひとつとしてあげられており、志望する生徒も増えているが、看護職について十分な理解がないまま入学し、学習についていけず学習意欲を失う者も見ら

1) リブコンサルタント Lib Consultant

れる。また、看護職に就いたものの、その後のキャリア開発や将来のビジョンを考える機会を持たなかったため、節目において主体的なキャリア選択や行動ができない者も少なくない。一方、病院などの臨床現場では新人看護職における一年以内の離職が問題とされる状況が見受けられる。看護職をめざす上での学習動機や専門職になるための目的意識・職業意識を明確にすることが必要だと実感する。

キャリアは、その年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、心理的・身体的・社会的発達段階や発達課題の達成と深く関わりながら発達するものである。その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが必要であり、キャリア教育がその役割を果たすものである。

これらを踏まえて、看護基礎教育におけるキャリア教育は社会人・職業人として必要な能力や知識を身につけるだけでなく、看護職として求められる態度や価値観を育てることや、社会で自分をどのように生かし発展させていくのか、中長期視点でキャリア形成を考えていくことが重要である。

Ⅲ. 看護学部におけるキャリア教育の内容

「看護実践総合演習」において実施しているキャリア教育の内容について、キャリア形成の課題を踏まえつつ紹介したい。キャリア教育において社会・職業への円滑な移行に必要な基礎的・汎用的能力の具体的内容として次の能力を育てることが求められている。「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」（文部科学省，2011）が示されている。

大学初年次は、「自己を理解する能力」を育てることが課題だと考えている。何のためにこの学部を選び、学ぶのか、何に興味があるのか、どのような学生生活を送りたいのか、将来どうなりたいのかなどである。新しい環境で学ぶ自己について理解を深めることは、主体的に目標を設定し、自分らしい生き方を実現していくキャリア開発の第一歩である。自己理解を深めていく学生とそうでない学生とは、勉強や学生生活への姿勢や態度に明らかな違いが見られる。

これらのことから、1年次授業では、「自己理解」「キャリア開発と目標」「ヒューマンスキルを高める」の3項目をテーマに授業を行った。自己理解シートに書いた内容をこれまでの人生で育ててきた内的キャリアとして捉え、二人一組になり語り合う。自己開示と他者からのフィードバックが自己理解を深めることにもつながる。互いに自己開示することにより、他者との関係性の深まりが他者と触れ合う喜びをもたらし、新しい環境への適応や目標を実現しようとする積極性につながる（佐々木，2011，pp.126-127）ことが明らかにされている。グループワークにおいても、自己理解と他者理解を深めることをねらいとして、グループメンバーと撮影した写真と共に大学での目標や夢を書いた色紙を作成する取り組みを行った。写真1はグループワークで作成した色紙である。



写真1 グループワークで作成した色紙

2年次にあたる大学中間期は、「価値観の形成」や「課題に対応する能力」を育てることが課題としてあげられる。1年次の経験を生かして積極的な大学生活を送るには、自己の課題を克服することが必

要となってくる。積極的な活動を行うことで能力を発揮し、自己の価値観を形成することにもつながる。価値観は人生観や社会観等、個人の内面にあって価値判断の基準となるものであり、それを行動に移す際に意欲や態度として具体化するという関係にある（文部科学省，2011）。

近年、若者に勤労観・職業観を含む価値観が十分に形成されていないことが指摘されており、社会に出たあと、人生に訪れるいくつかの転機に対処するために、また積極的に自分のめざす道を選択し行動に移すためにも、価値観を形成する経験をしておくことが求められている。さらに発達心理面においても、2年次は1年次と比較するとさまざまな葛藤が生じる時期であり、学習面や大学生活にも影響をおよぼす可能性があることが報告されている。

これらのことから、2年次授業は、「一年生から二年生への役割の変化」「能力と価値観について」「心理的課題と成長」「語り合い」をテーマに授業を行った。「能力チェックシート」を基に出来ていることの確認を行った。授業や人との交流の場面において具体的に行動出来ていることが現在、身につけている能力であり、社会においてもその能力が生かされることを伝え、シートにチェックをつけた項目の振り返りを促した。価値観が能力の発揮のし方を左右し、働く上では社会に対して望ましい価値観の形成が求められていることを伝えた。

「課題に対応する能力」を育てる取り組みとして、「いま気になること・悩み」を書き出すワークを行った。書き出した内容をグループメンバーに語る一方、アドバイスや励ましを得て、考えや気持ちを共有する時間を設けた。1,2年次とも理論の解説と個人・グループワークを行う形で授業を進めた。表1は授業終了後、自由記述シートに寄せられたものから抜粋したものである。

表1 自由記述の抜粋

1年次授業（2016年5月17日，24日実施）
<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな自分を知ることが出来て良かった。自分を見つめ直す機会になった。 ● 自分を知るには人と関わることが必要だと思った。 ● 考えを人と共有することは看護にもつながると思った。 ● モチベーションが下がったときに「目的」を明確にしておくことができると分かった。 ● グループワークから、責任性、積極性、協調性、規律性の大切さを実感した。 ● グループで意見を出し合い、色紙を仕上げた時の達成感が心地よかった。生きていく上で重要な工程であると学ぶことが出来てよかった。
2年次授業（2016年5月27日，30日実施）
<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の価値観を見直す良い機会になった。 ● 能力シートをチェックしてみて自分の成長を実感できた。 ● 2年生になり人間関係も複雑になり、良いことも悪いこともあり悩んでいたが、皆にアドバイスをもらい心が軽くなった。 ● 悩みを共有でき励みになった。コメントをもらい気持ちが救われた。 ● 昨年の自分と比べると悩みの質が格段に上がっていると思った。 ● みんな自分と同じように看護の勉強は大変で難しく思っていて、悩んでいることが分かり共感できた。

感想から、1年次生は新しい環境において自己理解、他者理解を深めること、目的意識や他者との関係性を築く上で積極性が重要であることに気づく機会になったと考えられる。2年次は、能力面での自己の成長や価値観について振り返り、進級や成人の一員への変化に伴う対人関係の深まりや広がり、学業への意欲や進路への不安など自己に生じる課題を客観的に見つめることが出来た。これらのことが、2年次が抱える課題を明確にし、課題克服への対処のし方を共有することで、「課題に対応する能力」を育て

ることにつながったことが伺える。キャリア教育の実践が学年に応じたそれぞれにふさわしいキャリア発達を形成していく上で、必要な意欲や能力、価値観を育てる役割を果たしたのではないかと考えられる。

IV. 新人看護師のキャリア継続への課題とキャリア教育

看護師のキャリア開発研修に携わるなかで、新人看護師の課題と思われる事例を取り上げたい。①新人であるがゆえに自分の考えや気持ちを表現してはいけな思考え、上司や先輩など周りとの適切な関係を構築できず、辛い感情を抱え込んだままにして仕事への意欲喪失や、メンタルヘルス不調に至ってしまう。②学生時代、意欲的に看護に関する学習に取り組んだものの、病院の臨床現場で働くことに適応出来ないと短期的視点で結論づけ、働き続ける意欲を失ってしまう。③看護業務の経験不足や未熟さゆえに起こしたミスから、「看護師に向いていない」と必要以上に自己肯定感を下げ、仕事への意欲や積極性を失ってしまう、などである。

これらは離職につながるものと考えられ、看護職として予期せぬキャリアの分断になることが懸念される。職業的自立に向けて必要とされる能力や態度を社会にでるまでに十分身につけていなかったことが原因のひとつではないかと推測される。近年、企業において新卒の早期離職の理由として人間関係を巡る課題といった項目があげられている。約10年間、大学生の相談業務にたずさわる中でも人間関係の悩みをあげる者が少なくなかった。人間関係の構築は、社会において仕事だけでなく、生活する上においても基盤となるものであり、多様な価値観をもつ人々と協働していくには社会に出る前に「人間関係を構築する能力」を身につけておくことが必要である。

近年、若者の自己肯定感の低さが指摘されているが、「人は失敗などの経験を通して試行錯誤しながら成長する」という考えをもつことが新人看護師に求められるのではないかと。E. シャイン (2016, pp.44-45) はキャリア・サイクルの段階と課題の中で、キャリア初期の正社員の課題の一つとして、「初めての仕事での成功感あるいは失敗感に対処する」ことを示している。失敗により必要以上に自己肯定感を下げってしまうことのないように周りからの支援を主体的に得て課題を処理し、解決する体験を学生時代にしておくことが望ましいのではないかと。この体験が仕事をする上で生じる様々な課題に対処する力に結びつくと考えられる。職業に就く前に「課題に対応する能力」を育てておくことが重要である。

少子・高齢化社会を迎え、女性の働き方を含め過去に例がない人生設計を考えることが必要となってきた。働くことの意義を理解し、社会における自己の役割や将来設計を考えて職業選択することが、主体的なキャリア形成につながる。ジェンダーの視点から、労働や福利厚生に関わる法律や就業継続／非継続の場合の生涯収入の違いなど、生活と労働に関わる基本的な知識を伝えることなどもキャリア支援の重要な課題である (谷田川, 2016, p.165)。自分を取り巻く社会について理解し、女性としてのキャリアを意識した将来設計を考える「キャリアプランニング能力」を育てる取り組みが必要である。

職業に就く前の学校におけるキャリア教育を通して、「人間関係を構築する能力」「課題に対応する能力」「キャリアプランニング能力」を身につけることが、新人看護師に起こり得る課題を克服し、キャリアの継続を支えることに有効な手段のひとつだと考えられる。

V. 看護学部におけるキャリア形成支援への提言

看護学部学生のキャリア形成支援につながると考えるものを提言したい。

1) 「キャリアプランニング能力」を育てる取り組みの実施

わが国において女性を取りまく社会状況は変わり続けている。一方、学生は社会の現状や問題について自分のこととして自ら考える機会は少ない。現在の生活と労働に関する基本的な知識や待機児童や介護など社会問題などを扱った講義も交え、広い視点を持ちながら、社会の中で自己の働き方を考える機会をもつ (谷田川, 2016, p.166) ことは将来を展望する上で有効であろう。

サニー・ハンセン (2013, p.48) は統合的ライフ・プランニングをする上で重要課題の一つに、「人生を意味ある全体のなかに織り込む」ことをあげている。働き方について、男女を問わず仕事とその他の人生の役割とのバランスを取りたいと考える人々が増えている。特に、妊娠・出産などライフイベントの影響を受けやすい女性について自己のニーズと働き方にどのように対処していくのか、また長期視点に立ち、女性が働くことを考える意識改革も含めた取り組みが必要である。この取り組みを通して、学生が将来を主体的に考え、時には修正しながら自分らしいキャリア形成を実現していく「キャリアプランニング能力」を身につけることが期待される。

2) 「課題に対応する能力」を高める取り組みの実施

近年、学生の主体的な学びを引き出す、アクティブ・ラーニングや PBL (Problem-based Learning, または Project-based Learning) と呼ばれる「問題解決型授業」を導入することが学校教育に求められている。学生自身が課題や問題を解決するための方法を考えるなどの能動的な取り組みを促す教育方法である。過去に他大学のキャリア科目において PBL を導入する授業を行った経験がある。従来の学習方法と比較すると、学生が主体的に課題を発見する力、計画を立てる力、実行力、思考力や協調性など能動的な取り組みが顕著に見られた。PBL を学生時代に経験しておくことが、社会に出て生じる様々な課題に対応する能力や課題に向き合う姿勢を養うことにつながるであろう。キャリア科目だけではなく、導入が可能と思われるその他の科目でも「課題に対応する能力」を高める PBL を導入することは望ましいと考える。

3) 生涯にわたるキャリア形成支援の実施

少子・高齢化による労働力人口の減少が進む中で、次世代の担い手である学生を社会に円滑に移行させるとともに、移行後も生涯にわたり社会人・職業人としてのキャリア形成を支援していくことが社会的にも重要となってきた。学校は中核的な機関として保有する教育資源をいかし、生涯学習の観点からキャリア形成を支援する機能を果たすことが期待される (文部科学省, 2011) と方向性が示されている。この観点から、社会に出たあとも卒業生のキャリア形成を支援する継続的な取り組みが望まれている。卒業した先輩が様々な分野で活躍する姿は後輩にとってロールモデルとなり社会で活躍する意欲を高め、キャリア形成を意識することにつながる。卒業生にとっても卒業後も母校にキャリアを支援される場をもつことは、自己の存在価値が認められ、その人らしさを尊重したキャリア形成の支援にもつながるのではないかと筆者自身、大学卒業後 20 年以上経った現在もキャリア支援でお世話になった母校の教員から届く母校のポストカードによる便りが働く上で励みになる等、大学によるキャリア支援の重要性を実感している。

将来を見据えて、卒業生を含めたキャリア支援体制を進めることが、看護学部学生の社会における様々な分野での活躍と看護学部のさらなる発展につながるのではないかと期待する。

VI. おわりに

社会情勢が大きく変化しつづける中で、大学の役割として地域や社会をしっかりと支えていく人材を育てていくことが強く望まれている。同志社女子大学の京田辺キャンパスの門を入ると同大学の創立者であり、約 130 年前京都看護婦学校を開始した新島襄の建学の精神 (岡山・眞鍋, 2016) が行事や文化活動など様々な形で具現化され、今も息づいているように感じる。この環境に身をおいて大学生活を過ごす学生が、心理社会的課題を克服しながら、良心を持って知識や能力を活かし、将来様々な分野で活躍することは社会にも大きな貢献を果たすものになるであろう。

看護学部におけるキャリア教育が、学生が社会の中で自分らしいキャリア形成の実現を支援するものとして、また「同志社女子大学らしい看護教育」の具現化に貢献するものとして、新島の建学精神や医療・看護への深い思いを忘れることなく、志をひとつにして教職員と連携しながら取り組んでいきたい。

文 献

- エドガー・シャイン (1986) / 二村敏子, 三善勝代訳 (1991). キャリア・ダイナミクスーキャリアとは生涯を通しての人間の生き方・表現であるー. 44-45. 東京: 白桃書房.
- 文部科学省 (2011): 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について. 中央教育審議会答申. https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/kyouiku_career/siensiryou4-5.pdf. (平成 28 年 1 月 6 日)
- 日本看護協会 (2012): 継続教育の基準 ver2, 1. <https://www.nurse.or.jp/nursing/education/keizoku/pdf/keizoku-ver2.pdf> (平成 28 年 12 月 16 日)
- 岡山寧子, 眞鍋えみ子 (2016): 同志社と看護学教育ー学士課程でいかに看護専門職を育成するのかー. 同志社看護. 1: 1-2.
- サニー・S・ハンセン (1997) / 平木典子, 今野能志, 平和俊監訳 (2013). キャリア開発と統合的ライフ・プランニングー不確実な今を生きる6つの重要課題 (第1版). 48. 東京: 福村出版.
- 佐々木正美 (2011): 完 子 どもへのまなざし. 126-127. 東京: 福音館書店.
- 谷田川ルミ (2016): 大学生のキャリアとジェンダーー大学生調査にみるキャリア支援の示唆ー. 165-166. 学文社: 東京.